

## 講演

講演者：一般社団法人落語協会真打 三遊亭 彩大

### 「落語で学ぶ親子関係」

こんにちは。ご紹介にあずかりました、落語家の三遊亭彩大でございます。

今回の大会はコロナ渦の影響で3年振りの開催だそうですね。主催者の方からは、長く苦しい我慢の規制が明けた訳ですから、今年は是非、落語の笑いの力をお借りし、皆で楽しく親子関係を考える機会となる講演会をお願いしたいとのご要望を伺っております。

また、現代の新たなテーマともいえる「多様性」についても、落語の中で共通するものがありましたら、その点も是非聞いてみたいと伺っております。

「落語で学ぶ親子関係」というテーマから考えますと、確かにいつの時代も、家族や親子問題、また学校生活の問題は色々あるものでございます。しかし、世の中どんどん変わってまいりまして、最近では「親ガチャ」「毒親」など、私が学生だった頃にはなかった、驚くような負の言葉を耳にするようになりました。

時代という視点から言えば、私は昭和46年生まれの52歳でございます。本日ここにいらっしゃる先生方はベテランから若い方まで様々ですが、親御さん達はほぼ私と同世代かと思えます。なので親御さん方とは、自分が子供であった頃の思い出を懐かしく語り合いながら朝まで飲み合わせる気が致します（笑）

これらのご要望についての私なりの考えを講演としてお伝えさせていただく前に、親子関係が描かれる古典落語『抜け雀』を一席、お聞きいただこうと思います。

#### 『抜け雀』（あらすじ）

夫婦二人で切り盛りしている宿に、汚い着物の若い男が通りかかり、宿の主人が声をかけると宿に泊まることになった。しかし、朝から晩まで酒を飲んで寝るだけ。支払いを危ぶんだ主人が

宿代を請求すると金はないが、自分は絵師だからと衝立に雀を5羽描き、これで五両になると言う。

翌朝、何と衝立の雀が衝立から飛び立ち、餌を食べたらまたピタリと衝立に戻ってきた。これが話題となり宿は「雀のお宿」と呼ばれ大繁盛となる。

ところがある日、初老の武士が訪ねて来た。絵を見て「未熟だ。雀が休むための場所がないではないか」と、衝立に止まり木と鳥籠を描き加え去っていった。すると翌朝、雀は衝立から飛び立ってちゃんと鳥籠の中で休むようになったので、宿はますます評判となった。

しかし、この話を宿の主人から聞いた絵師の若者の顔色がみるみる変わり、衝立を見るなりひれ伏して「ご無沙汰しております、度重なる親不孝をお許しください」と泣き出した。籠を描いたのは若者の父親だったのだ。

宿の主人が「親子二代で名人で、息子のあなたは立派な孝行息子ですよ」と言うと、絵師は「いえいえ、見てください、大事な親を駕籠かきにしまった・・・」と嘆いたのだった。

以上、落語「抜け雀」でございました。最後の「駕籠かき」のサゲ（オチ）の意味がお分かりになりましたか？

※駕籠かき・・・宿屋や旅籠で客を待っている駕籠を担ぐ職業。重労働の上、素行の悪い人が多く、当時は身分が低かった。

親をそのような身分のものにしてしまったことと、自分の腕が未熟なため、親に作品を手直しさせてしまったという解釈も出来そうです。

落語には、この他にも親子関係を扱っているものが色々ございます。ご興味のある方は、ぜひお調べになって落語の場に足を運んでいただけましたら有難いです。

さて落語の中での親子関係とは、ある意味定

番の設定となっています。父親が出来の悪い放蕩息子を勘当する。息子は、参っちゃったなあ〜と困りながら何事かを起こして、最後は勘当が解かれて親子の情が感じられる話などもあります。勘当というのは、戸籍から除いてしまうことなので、家の相続権も失うんですね。勘当された息子が火消しになって、実家が火事になり心配で駆けつけても、家族は勘当しているから「どちらさまで？」などと他人のように接するんですが、これは切ないですよ。

また、「子はかすがい」とも言いますが、親が不仲になっても子供が夫婦仲を繋ぎとめてくれるから子供は有難い存在だと。母親が奉公に行った息子が盆正月に帰って来るので、親は好物を食べさせようかと色々考えるんですよ。あとは父親が、酒飲みの息子の酒をやめさせようとするが、まず自分も改めねばと思い、自分も酒をやめる！と宣言するが、結局は親子二人してまた飲んじゃう、みたいなオチの話もあります。

現在のLGBTに該当する多様性ということについては、落語の中では残念ですがあまり当てはまらないと思います。たくさんの立場が異なる登場人物が出てくるからといっても、それは多様性ではないと思います。同じ価値観ばかりでは多様性があるとは言えないですし、人は自分と違う価値感の人を排除する傾向があります。その違いを受け入れることこそが多様性であると思います。

また、子育ての中での子供さんへの声掛けですが、なるべく否定的な言い方をしないでほしいです。私の母親は子供を心配する親心からかもしれませんが、一事が万事、否定的な言い方ばかりでした。遠くに仕事に行くと言えば、「そんな遠くになぜ行くの！」遅い時間に家を出れば「こんな遅くに仕事なの？」天気が悪い日に仕事に行くと言えば「雨なのに仕事なの？」という感じで。悪気がなくてもこういう声掛けは心が弱りますので、「遠くまでご苦労様ね」「遅い時間に大変ね、気をつけて行ってらっしゃい」「雨だから運転気をつけてね」というように、子供を励ますポジティブな言葉かけを是非お願いしたいと思います。

また、子供の進路や将来の仕事の選択も、どうしてそうしたいかを一緒に考えてほしいです。公

務員が安定していると言われたらそれを受け止めつつ、他にも安定している仕事があるかもと一緒に考えるとか。

また。将来の選択肢を広げるためにも、子供に色々な経験をさせてあげてください。私自身は子供時代にそういった経験がなく会社員になるしか考えつかなかったのですが、過酷な会社での生活が大変辛く、そんな時に落語を聞き面白いと思いつつ方向転換をしました。

あと、先生方は目立たない子供は印象に残りにくいと思いますが、私自身も目立たない子供だったので、悩みがあっても言い出せませんでした。是非、そういう子供にも目をかけていただけたら子供はとても嬉しいのではないかなと思いますので、ぜひ、よろしくお願い致します。